

# こころ



THCU Chronicle *Heart* No.28 Summer 2019

第28号



▲平成30年度学位記授与式及び平成31年度入学式の様子【上段左、中段、下段右】  
▲キャンパス周辺の様子【上段右：目黒川の桜、下段左：国立病院機構キャンパスのツツジ】

**日本・地域の医療保健を支えるキーパーソン育成に向けて**  
**「自治体や連携病院と更なる協力関係へ」**

本号では、東が丘・立川看護学部が改組により「東が丘看護学部、立川看護学部として再スタート」及び「和歌山看護学研究科の設置に向けて」を特集するとともに、本年3月に立川市と包括連携協定を締結し、自治体との更なる協力体制を築いていること等をご紹介します。【関連ページ：2、8、7、20ページ】また、3月11日(月)には、めぐろパーシモンホール(目黒区)にて学位記授与式を挙行し、当日は51名に学位記及び修了証が授与されました。4月3日(水)には、今回初めて「東京国際フォーラム」を利用し、入学式を執り行い、705名の新入生が入学しました。【左写真参照】なお、和歌山看護学部の入学式は、4月7日(日)に「和歌山県民文化会館」において執り行い、新入生(2期生)100名が入学しました。【9ページ参照】

**CONTENTS**  
目次

- 2 東が丘・立川看護学部の再スタート
- 3 和歌山看護学研究科設置に向けて
- 4 医療保健学部 看護学科
- 5 医療保健学部 医療栄養学科
- 6 医療保健学部 医療情報学科
- 7 東が丘・立川看護学部 看護学科
- 8 千葉看護学部 看護学科
- 9 和歌山看護学部 看護学科
- 10 大学院 医療保健学研究科
- 11 大学院 看護学研究科
- 12 放射線看護研修センター  
産後ケア研究センター
- 13 国際交流センター
- 14 平成30年度 各種国家試験受験結果
- 15 平成30年度 学科別進路状況
- 16 平成31年度 学生募集結果  
平成30年度 決算報告
- 17 高大接続 進路講演を開催
- 18 News 大学評価(認証評価)結果  
Press 主なメディア掲載
- 19 Award
- 20 Topics

# 2020年度から東が丘看護学部、立川看護学部として再スタート

東が丘・立川看護学部は、2020（令和2）年度に、東が丘看護学部および立川看護学部の2つの学部に分離することを、去る3月の大学経営会議において決定し、現在、文部科学省への必要な手続きを進めております。

災害医療センター構内（現在の校舎の横）に、講義室、演習室を含む2階建ての校舎の増築の準備を進めており、立川看護学部開設と同時に1年次生から4年次生までの全ての教育（講義、学内演習等）を、同一キャンパスで行うことができる運びとなりました。

災害看護学コースの、特に、1年次生の皆さんには、講義・演習は、国立病院機構キャンパスで、7月と2月の実習は、災害医療センターおよび村山医療センターで行うという不便な教育環境を我慢してもらってきました。

東が丘・立川看護学部は、平成22（2010）年に東京医療センター附属・東が丘看護助産学校を大学化し定員100名の東が丘看護学部としてスタートし、さらに、平成26（2014）年には、災害医療センター附属・昭和の森看護専門学校を大学化し定員200名の東が丘・立川看護学部に名称変更し、臨床看護学コース（国立病院機構キャンパス）、災害看護学コース（立川キャンパス）の2つのコースを設けて教育を行ってまいりました。

2019年度現在、看護系大学は全国に272校（定員24,525人）ありますが、多くの看護学部の1学年の定員は、80名から100名であり、定員200名の本学東が丘・立川看護学部は、全国看護系学部の中で、最大規模の学部です。学部の分離により、一人ひとりの学生の顔が見え、きめ細かく目配りができる適正規模の学部とし、実践の科学である「看護学」を徹底的に教育し、社会・時代の多様なニーズに的確に対応できる、こころ豊かな、実践力を身につけた看護師の育成を目標に、さらなる前進をしてまいります。

2つの学部に分かれても学部の使命である教育・研究・社会貢献の3つの柱を堅持していく姿勢は変わりませんが、それぞれの学部の立地特性等を生かした活動を通して、両学部の団結力、自律性、独創性等がさらに強化されるものと考えております。

災害看護学コースは、看護基礎教育課程に「災害看護学」をコー



主な実習先となる東京医療センター（左）と災害医療センター（右）

ス名に冠した全国唯一の大学でした。立川看護学部となりますと、「災害看護学」の冠名称が、なくなりますが、自然災害が多発し、看護師の活動が期待されている中で、カリキュラム等に工夫を加え、防災、減災、縮災にも寄与できる看護師の育成モデルを示すことができると考えております。

新元号とともに、新たにスタートする2つの学部では、本学の大学ビジョンにも詠っております、「多様な価値観を尊重し、一歩先を歩み続ける開かれた大学」に沿って、人口減少、超高齢社会が加速するこれからの日本の医療・保健の中で、チーム医療のキーパーソンとしての役割を担うことができる、考える力、判断する力、実践する力、新たな改革に挑む力をもった看護師の育成を目指してまいりますので、ご支援・ご協力よろしくお願い申し上げます。

本年3月の両コースの学生が集まる機会に、2020年度から2つの学部に分離するための作業を進めている旨を学生に伝えた時の、学生達の驚きと笑顔に満ちた表情と拍手がとても印象的であり、大学が進めている方針が、学生に期待をもって受け止められていることを認識しました。

令和2年度の新しい2つの学部の素晴らしいスタートに向けて、教職員が一丸となって準備を進めてまいります。

## 東が丘・立川看護学部看護学科

### 臨床看護学コース

#### 東が丘看護学部

**医療の多様化・変化に対応し  
本来の医療・保健を支える自立した看護師へ**  
時代・社会のニーズに対応できる専門性の高い知識・技術を備え、「チーム医療」の一員として活躍できる確かな看護実践能力を養成します。自ら考え、判断し、行動できる、自律した看護実践能力の高い看護師“tomorrow's Nurse”を育成します。

**主たる実習先** 国立病院機構東京医療センター  
**キャンパス** 国立病院機構キャンパス（東京都目黒区）



### 災害看護学コース

#### 立川看護学部

**あらゆる状況や場で生活している人々に  
最善の看護を提供できる看護師へ**  
臨床に強い看護師の育成を基盤として、健康支援への看護実践能力、災害対応能力、看護探求力を兼ね備えた“地域から信頼されるNurse”を育成します。

**主たる実習先** 国立病院機構災害医療センター  
**キャンパス** 国立病院機構立川キャンパス（東京都立川市）



# 『和歌山看護学研究科（修士課程）設置に向けて』

東京医療保健大学大学院和歌山看護学研究科は、和歌山看護学部開設当初から準備を始め、現在令和2年4月の開設を目指して文部科学省に設置申請中です。

和歌山県は全国に先駆けて急速な少子高齢化が進行し、中山間地域を含む南北に長い地理的環境であり、医療機関が偏在している現状です。県民が住み慣れた地域での生活を継続するために、保健医療福祉の各分野の連携をもとに地域包括ケアシステムが有効に機能する必要があります。そのために「地域を巻き込んで健康生活への支援が行える高度な実践能力をもつ人材」が必要です。

和歌山県で働く看護職は14,337人（2016従事者届）です。看護職養成は、3年課程の専門学校が8校であり、大学は2018年開設の本学部と合わせて2校、大学院は1校のみであり、県内で働く看護職は圧倒的に専門学校を卒業した人たちです。県民の健康生活に貢献するには多職種と協働し、チームケアのキーパーソンとして地域包括ケアを推進できる高度専門職業人の養成は待ったなしの状況と考えます。また、現職にある看護職者の資質向上により、本学部学生への実習教育、就職後の継続教育の充実につながることも期待できます。

看護職の学習ニーズを把握するために、2018年11月～12月に大学院への進学ニーズを調査しました。その結果、学習ニーズが高く、大学院進学を希望する者が増加すると推測できました。具体的な意見として、「県内に学習できる環境が整うことはよい」「学ぶことは仕事のやりがいにつながる」という期待、「大学院へ進むことで何がかわるかの情報」や「もう少し外へ発信してほしい」など情報の周知の必要性、「学費の捻出が難しい」「へき地からの進学だと家計への負担が大きい」など学費に関する内容があげられました。さらに、和歌山市内への通学が厳しいために「遠隔授業やサテライトの開設」「寮などの整備」を望む声がかかれ、今後の課題でもあります。

本研究科は、すでに実践者として活躍している社会人を対象とした人材養成を軸にして、修士課程として開設します。研究領域は、包括ケアマネジメント学領域、包括ケア実践学領域、包括ケア教育学領域の3つを設け、それぞれの領域に2名の研究指導教員を配置しました。包括ケアマネジメント学領域ではケアの管理やケア提供システムを構築・改善できる人材の養成、包括ケア実践学領域では保健医療福祉分野で高度な看護実践が提供できる人材の養成、包括ケア教育学領域では保健医療福祉分野における教育・指導を企画・推進できる人材の養成をします。また、県内では認定看護管理者の受験資格を取得できる養成機関がないために包括ケアマネジメント学領域の選択により受験資格を取得できるようにしました。入学定員は12名としています。

キャンパスは、日赤和歌山医療センターにあります。学部の3年次生の引越しと同時の開設であるため、1年間は和歌山赤十字看護専門学校3年次生とも同じ学び舎になります。

社会人が働きながら学べるように、夜間及び土曜日や休日に開講します。また、大学院での学修に困らないように、効果的に学べるように入学前からの学習支援を考えています。

本学では、すでに2つの大学院教育が実績を上げています。まずは広く広報活動を行い、本学大学院の教育体制や履修案内、また学生募集などを参考に、今年度を実施する入試に向けて学生募集の準備、同時に履修案内の内容について検討を始めています。

和歌山県民の健康支援と看護の質の向上に貢献できることを願い、学生が困らないように、教職員が全力で教育体制を整えて学生を受け入れたいと思っています。

和歌山看護学部長 やしまたまこ  
八島 妙子



和歌山看護学研究科教授予定者



和歌山看護学研究科リーフレット



## ■概要

名称：和歌山看護学研究科（看護学専攻）  
入学定員：12名 学位：修士（看護学）  
※内容は予定であり変更になる可能性があります。

## ■専門領域

『包括ケアマネジメント学』…ケアの管理やケア提供システムを構築・改善できる人材を育成  
『包括ケア実践学』…保健医療福祉分野で高度な看護実践が提供できる人材を育成  
『包括ケア教育学』…保健医療福祉分野で教育・指導にあたる人材を育成

## GNP企画講演会『医療ケアを受ける外国人患者と家族の経験』

2019年3月18日、本学教職員らによるグローバルナース育成プログラム（以下、GNP）開発プロジェクトの企画で、公開講演会「医療ケアを受ける外国人患者と家族の体験」が本学・五反田キャンパスにて開催されました。GNP開発プロジェクトは、看護学科ビジョンの柱の1つである「グローバル化への対応と発信」を目指し、2018年度に発足しました。看護学科のほか、医療情報学科、大学院の教職員に加え、NTT東日本関東病院の看護師もメンバーとして参加しています。初年度は、医療現場における外国人患者・家族対応の現状と困難、課題を明らかにすることを主な目的として活動してきました。

講演会では、日本において医療ケアを受ける外国人患者と家族の経験を語る演者として、医療通訳者のカブレホス・セサル氏（以下、セサル氏）を招へいしました。セサル氏は、11歳の頃ペルーから日本に移住し、最初は外国人コミュニティの中でボランティア的に医療通訳の役割を担ってきました。その後、多言語通訳・翻訳を事業とするランゲージワン株式会社に勤め、現在はポルトガル語圏の医療通訳を専門に担当しています。



講演会の様子（五反田キャンパス）

「外国人患者の対応においては、言葉の壁だけが問題ではなく、家族や友人、医療や健康に対する価値観、宗教の問題が深くかかわってきます」とセサル氏は言います。氏は、痛みの強い外国人患者や旅行中外国人の救急外来受診など、通訳として入った具体的な事例を紹介。家族の入院は一大事であり病室に親類一族が大集合するという母国の常識や、日本の医療スタッフのあいまいな態度や説明に対する外国人の違和感、加入保険を尋ねることから生じた誤解や怒りなどについて語りました。また、看護師のかかわりについては、外国人患者は言葉と文化の壁により戸惑いがある中でも、看護師に理解してほしいと思っていること、患者によって看護師の対応が異なると疑問に思うので、病院としての対応方針があるとよいだろうと述べました。

参加者51名（教職員、学生、近隣病院の看護師など）のうち、アンケートに協力いただいた方全員が、講演内容に概ね「満足」と回答しました。臨床での外国人対応を振り返り「あの時感じた違和感は、日本との文化や医療に対する価値観の違いによるものだったと再認識できた」などの感想も寄せられました。



カブレホス・セサル氏

## 健康フラ・介護フラ グッドデザイン賞受賞

医療保健学部看護学科 秋山美紀准教授が理事を務める、一般社団法人健康フラ・介護フラ協会（代表理事 栗原志功）が、2018年度のグッドデザイン賞を受賞しました（受賞名称：健康フラ介護フラ、受賞内容：社会貢献活動）。これは、介護を必要とする高齢者を対象とした、昔の歌謡曲に合わせた車椅子でも踊れるフラです。

本学の地域保健活動演習においても、地域の健康づくり活動支援事業で学生と地域住民とで踊りました。今後は北海道の病院を始め、オーストラリアの高齢者施設でも行われる予定です。秋山准教授はメルボルンで行われる the 6<sup>th</sup> World Congress of Positive Psychologyで、フラの健康に対する効果について発表予定です。



秋山先生

## 「栄養とがん予防」の講演会

2019年2月10日曜日午後には東京・目白の日本女子大学キャンパス内の百年館3階(302教室)で、東京都栄養士会研究教育事業部の研修会として、「栄養とがん予防」の講演会が開催された。都内の大学、病院、企業に勤務する栄養士・管理栄養士約50名が参加された。私は、「ふたつのがん体験から学んだ食事とがん予防」のタイトルで、がん予防のための食生活について講演した。

私は消化器がんの手術治療を専門とする消化器外科医を40年以上勤めてきた。その間に自分自身が胃がんと前立腺がんを体験し、今では完治しているがん患者・サバイバーでもある。講演では、自分自身のふたつのがんの治療体験を踏まえて、「胃がん」「食道がん」「大腸がん」「膵臓がん」「前立腺がん」「膀胱がん」「腎がん」「子宮がん」「乳がん」の9つのがん種について、世界がん研究基金による疫学的データに基づいて、がん予防にかかわる栄養・食事の役割について紹介した。また、特定のがんを予防するための食生活を維持することは極めて難しいこと、がん発生年齢になってから食生活を変えても遅いこと、食生活でどんなに予防してもがんに罹患する可能性があること、などを述べた。病気の予防は、1次予防、2次予防、3次予防に分けられるが、自分自身の体験から、がんの予防は2次予防が重要で、定期的ながん検診によって早期に発見し、早期に治療することの大切さについて強調した。

今回紹介した9つのがんのうち、子宮がん・乳がん以外の7つのがんはいずれも、私自身に加えて、前任のNTT東日本関東病院や現在の大学での私の先輩や同僚の医師が体験しているが、全員が早期に発見されたことで完治していることを紹介したので、参加者によく理解していただいたことと思う。

学科長 教授 小西 敏郎



小西学科長

## 研究室紹介



私は、本学開学時から医療栄養学科、看護学科、医療情報学科の栄養学や関連科目と、2010年度から始められたキャリア教育Ⅰ～Ⅲ等を担当しています。

私の研究室では、毎年希望者から数名を採用し、濃い密度で共に学ぶ喜びを体験しています。

研究室に参加してくれた学生との対話から、何冊かの教科書を執筆することができました。

また、開学時の一期生から、折角医療保健大学に入学したのだから、手話やボランティア活動のサークルを作って活動したいとの申出があり、私自身が学生時代から手話やボランティア活動を行っていた関係から、サークル顧問を引受け、学生とともに手話スキルの取得やボランティア活動を通して、主として世田谷区、品川区で地域貢献に取り組んでいます。

私の研究室には、疾病予防栄養学を中心いくつかの大きな研究テーマがあります。それは、「働く女性と栄養問題」です。

近年、働く女性に対する社会的関心が高まった一方で女性を悩ませる健康上の問題も出てきています。例えば、PMSに伴って生じる精神的・身体的症状があります。

私たちの研究では、大豆にはミラクルフーズといわれるほど多くの栄養成分があり、特に大豆イソフラボンには女性ホルモンエストロゲン様の作用があり、大豆イソフラボン的一种であるダイゼインから腸内細菌によって産生される活性代謝物「エクオール」が、働く女性の身体的・精神的症状を緩和することを明らかにしました。

そのご縁で、大手製薬会社の研究スタッフと共同研究に取り組んでいます。若い年代の人たちの大豆(大豆製品)の摂取量がなかなか増えないことを心配していますが、関係機関の「女性活躍推進法」の取組みを追い風に、大豆摂取の栄養に関する知識の普及は、働く女性にとって有益であり、また骨や関節などに女性ホルモンが大きく影響していることを考えると、私たちは、栄養学だけでなく、女性ホルモンと健康の関係についても研究を拡げ、全ての働く女性を応援していきたいと考えています。

准教授 神田 裕子



## 台湾看護情報学会が来訪 - 双方の看護情報学等について意見交換を実施 -

2019年4月9日に、台湾看護情報学会（台湾護理資訊學會：Taiwan Nursing Informatics Association）の李作英理事長はじめ19名の方が、本学五反田キャンパスを訪問されました。

石原照夫副学長・医療情報学科長の歓迎挨拶の後、日本医療情報学会看護部会病棟デバイスWG長でもある瀬戸僚馬准教授から、日本における看護情報学研究の動向や、厚生労働省標準規格である「看護実践用語標準マスター」等の説明がありました。続いてNTT東日本関東病院・相馬泰子副看護部長からは同院看護部の概要や情報システムについて、フクダコーリン株式会社の天野秀紀氏からは電子カルテシステムに連動できる医療機器の動向について説明がありました。

台湾側からは、台湾看護情報学会の李作英理事長から台湾における看護情報人材教育等について説明があり、台湾で7つの病院を運営している秀傳醫療體系（Show Chwan Health Care System）の劉立副院長からも同グループの概要や情報システムについて紹介がありました。秀傳グループは、患者向けスマホアプリ開発など病院経営にとどまらず幅広い事業展開を行っています。

台湾は「モノのインターネット（IoT: Internet of Things）」の分野で先進的な取り組みの多い地域であり、近隣諸国への輸出にも積極的です。医療情報学科としても交流を深め、積極的に情報交換を行っていきたく考えています。

准教授 瀬戸 僚馬



本学教員と台湾看護情報学会の方々

## すごろく形式で医療情報学科の卒後のキャリアを考える学び

学生生活を行うための素養作りとして、すごろく形式で卒後のキャリアを考える学びを実施しています。この教材の基盤となったのは、独立行政法人労働政策研究・研修機構が開発した「キャリアシミュレーションプログラム」で、就職後～25歳、25～30歳という2つの年代の職業生活のすごろくを行います。職業生活で起こった出来事に対し、自分がどのような選択をとるかで、得られる結果も異なります。すごろくの中でこのような体験を繰り返し、さらにグループディスカッションで考えを深めることで、就職直後～職業生活初期での人間関係の形成や仕事の進め方等についてのイメージを獲得し、簡単な見通しを得ることを目的としています。

オリジナルのバージョンでは、一般企業の営業職を想定していますが、医療情報学科の卒後のキャリアでは、システムエンジニアや病院職員を選択する卒業生が多く、大学の学びとの接続を考えても、これらの職業イメージや見通しが得られれば、より良い学びが期待できます。そのため、それぞれの職業を経験した教員を中心にチームを作り、体験した出来事などをもとに一部のストーリーと選択肢を置き換えて「システムエンジニア版」「病院職員版」の2種類を作成しました。例えば、システムエンジニア版では「ユーザからシステムが使えづらいとクレーム。改善点を考えて上司に報告。」病院版では「今月分の保険請求はミスが多い。原因を分析して、医事課長に報告」というように、それぞれの日常的な職場の出来事を反映しています。

今年度も5月の合宿研修期間中に実施しますが、1年生のころに将来のイメージを持つことで、今後の充実した大学生活となるように、情報と医療の学びや資格取得に良い影響が期待されます。

教授 今泉 一哉

医療情報のキャリアシミュレーションシート

## 卒業研究が学術集会で優秀賞を受賞！！

2018年9月9日に開催された第17回日本看護技術学会学術集会において、東が丘・立川看護学部臨床看護学コースの成人・老年看護学領域で卒業研究を行った第5期生（2018年3月卒業 高津 愛結さん、小林 美綺さん、齋藤 このみさん、玉井 夏帆さん、前田 奈那子さん、八島 あやめさん、由井 愛莉さん、横畑 智洋さん、渡辺 千華子さん、安部 茉里さん、松平 明日絵さん）が発表した演題が、「卒業研究交流セッション優秀賞」を受賞しました。この賞は、看護技術の革新や看護技術に関するエビデンス構築に特に寄与すると評価された卒業研究に贈られるもので、全国の看護学生による創意工夫に満ちた総勢13題の卒業研究の中から選出されました。

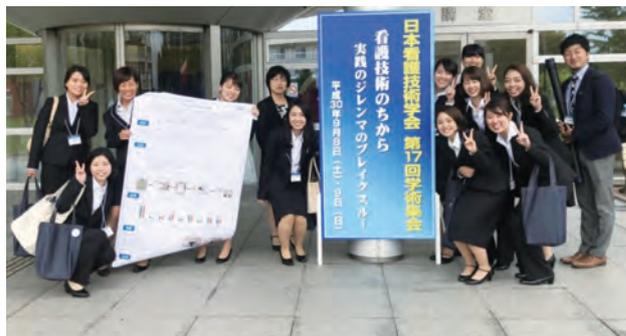
東が丘・立川看護学部の卒業研究では、10名程度のグループでひとつの研究テーマに取り組んでいます。今回受賞したグループの研究は、「エアマットレスに対するずれにくいベッドメイキングの検討－三角法と結び法の比較－」をテーマとして取り組んだ研究です。学生たちが臨床実習期間中に感じた素朴な着想から生まれました。研究計画やデータ収集・分析、論文作成の全ての研究プロセスにおいて、グループ研究の強みを活かし、11人の学生が丸となって、とても熱心に取り組んでいました。

今回の受賞は、本学の卒業研究の成果が対外的にも十分評価される水準であることの表われでもあります。グループのリーダーと、学会当日の発表の重責を務めた高津さんは、グループメンバーを代表して「本当に嬉しいです！みんなで頑張った甲斐がありました！！」と大変喜んでおります。さらには、先輩たちのこの栄えあ

る朗報を受けて、現在卒業研究に取り組んでいる最中の後輩たちのモチベーションもとても高まっています。

看護は実践科学です。今日の看護職には、実践者であることと同時に研究者であることも求められています。本学も、「東京医療保健大学ビジョン」の実現に向けた6つのアクションプランのひとつに、「世界をリードする先進的研究の推進」を掲げ、看護基礎教育課程から継続して研究に関する教育を重視しております。今後も引き続き、未来を担う看護職に相応しい研究者マインドを育成して参ります。

臨床看護学コース 成人・老年看護学領域 准教授 竹内 朋子 たけうち ともこ



第17回日本看護技術学会学術集会 会場にて

## 災害看護学コースの学生が立川市消防団に多数入団!!

「わが街を災害から守る」という使命のもと、東が丘看護学部生が目黒消防団に入団したのが平成23年。以来、その「伝統」は引き継がれ、常時100名を超える学部生が目黒消防団に入団しています。

一方、災害看護学コースの学生が学ぶ国立病院機構立川キャンパスがある立川市には、「学生消防団」や「女性消防団」という組織は存在しませんでした。

災害看護学コースの学生のボランティア活動への参加意欲は強く、「主な実習施設である災害医療センターの災害訓練」「立川市主催の立川駅帰宅困難者訓練」などさまざまなボランティア活動に参加しています。とりわけ消防団活動を通じての社会（地域）貢献活動への意欲が日に日に学生間で高まっていく中、立川市においては看護系の大学が本学のみとのことから、平成31年3月、健康に関する教育や大規模災害時の対応などで連携・協力を図ることを目的に本学と基本協定を締結しました。その中で「学生消防団創設」が協定書に盛り込まれ、4月に募集をしたところ2年次生から4年次生の3学年で80名を超える入団希望者が集まりました。



学生消防団説明会（立川キャンパス）

正式入団は、令和元年10月となりますが、「わが街を災害から守る」という本学部の「伝統」が立川市においても新たに加えられ、そして平成から令和へ受け継がれることは大変素晴らしいことと思います。

立川市は、内閣総理大臣を本部長とする緊急災害対策本部が設置可能な立川広域防災基地を有する防災都市です。災害看護学を学ぶ立川キャンパスの学生にとってこの様な環境に触れつつ消防団活動が出来ることは学生時代の貴重な経験になると思われます。

連携協定締結時に本学の田村理事長が次のように述べられました。「大学の使命は、教育、研究、そして社会（地域）貢献だ。今回の協定でその仕組みができた」。

東が丘事務部長兼立川事務部長 利光 重信 としみつ しげのぶ



目黒消防団活動

## アドバイザーグループ活動報告

2019年4月1日、船橋キャンパスでは107名の2019年度入学生を2年生全員と教員で歓迎しました。各学年10～11名のアドバイザーグループごとに分かれ、持参した昼食と大学で準備したスイーツを食べながら、2時間ほど自己紹介や談笑をして過ごしました。各教室のホワイトボードには2年生から1年生を歓迎するメッセージ書かれており、席の配置などにも工夫が凝らされていました。ガイダンス初日の活動だったため、1年生は同級生とも初対面で、最初の頃は緊張した面持ちでしたが、徐々に打ち解け、会の終盤には共通する趣味の話などで会話が弾んできておりました。まだ先輩に聞きたいことなどはあまり浮かばない様子でしたが、先輩となった2年生からは、学習方法や試験対策、科目履修のアドバイス、サークルの

紹介と勧誘、学業とアルバイトの両立などの話題が挙がりました。また、今後のグループレクリエーション活動の内容についても検討しました。体育館でのスポーツ大会や食事会、テスト対策に向けた茶話会などの案が挙がっていました。

アドバイザー制度は学生生活が円滑に送れるように担当教員が窓口となって支援する制度ですが、今年度から縦割りグループ編成とし、1年生から4年生までの縦のつながりの形成も支援していく予定です。大学内での交流だけでなく、卒業後も同じ看護職として様々な場で交流できるような関係を築けていければと思います。

小児看護学領域 准教授 たくぼ ゆみこ 田久保 由美子



## 新入生合宿研修 ～楽しみながら地域を学ぶ～

5月9日、10日に国立オリンピック記念青少年総合センターで実施した新入生合宿において、昨年度に引き続き和歌山看護学部と合同で研修を実施しました。この研修は地域全体を視野に入れた健康の捉え方を検討し、健康支援の方策の多面性を理解する素地を養うことや、課題の準備やグループ学習を体験することを通じて、今後4年間で看護を学ぶ基盤を形成することを目的としています。

1年生は教員の説明を受けた後に、事前課題として、4名一組のグループになり、「千葉県」か「船橋市」の①地理、②人口動態、③産業、④保健・医療・福祉の1つについて4人で協力して各種データを調べ、全国のデータとも比較し特徴を明確化することを通じて地域住民の健康課題を明らかにしました。

合宿研修の1日目は、和歌山について同じ内容を調べた和歌山看護学部のグループと情報共有し、共通点や相違点を明らかにしながら、



健康課題を見つけ、これまでの授業での学修も活かして自由な発想を出し合って支援策を検討しました。更に2日目はその結果を発表し、質疑応答を通じて全体での理解を深めました。

事前課題の段階では、初見の専門用語や見慣れない統計資料に苦戦していた1年生ですが、グループの意見交換や教員の助言を上手に活かして計画的に準備を進めていました。

合宿冒頭は緊張した面持ちで、自分の調べてきたことを初対面の人たちに伝える難しさを感じる学生もいましたが、この合同研修を通じてコミュニケーションの基本やタイムマネジメントの重要性についても体験的に確認できたようでした。最後には和歌山看護学部の学生と看護職としての再会を期して写真撮影するなど、笑顔があふれていました。

老年・在宅看護学領域 教授 しみず じゅんいち 清水 準一



## 和歌山看護学部は二年目が始まりました

二年目が始まりました。一年目の勢いを維持・加速したいものです。そのための学内の体制として新しく19名の教員と2名の事務職員が着任しました。そして100名の2期生が入学し、雄湊キャンパスは急ににぎやかになりました。

今年の入学式は、2学年次生や多くの来賓の方に祝福され挙行されました。式典終了後に、日本赤十字社副社長の大家義治様から「看護の道を志す皆さんへ」と題して講話があり、赤十字の精神と看護のこころは共通していること、皆さんは建学の精神のもとに何をすべきか自分の頭で考える力を養うのが使命だと述べられました。

学部内の充実のほかに学部の活動に関与する2つのことを紹介



します。まず、地域をつなぐ活動拠点として和歌山市内の大学生、NPO、地域住民など様々な人に利用可能な「地域フロンティアセンター」が4月3日に開設しました。オープンセレモニーで尾花正啓和歌山市長は「地域を支える団体と学生がともに交流、連携して新しい活動が生まれることを期待する」と挨拶がありました。

また、県内の高等教育機関が知的資源を結集し、地域貢献のために活動している「高等教育機関コンソーシアム和歌山」に本学部も今年度から参加します。教職員が企画運営や教育研究、事業実施などに参加して活動を開始します。本学部にとっても活動を広げるきっかけになりますので、具体的活動を提案していきたいと思っています。学部内の充実とともに、外部に向けても発展できるように教職員・学生と共に今年度を過ごしていきたいと思っています。

学部長 教授 やしま たえこ 八島 妙子



## ポートフォリオ研修会を開催

和歌山看護学部でポートフォリオを導入することが決まり、「ポートフォリオをあまり知らない」「知っているが具体的な活用方法がわからない」という教員のアンケート結果を受け、平成30年度学長裁量経費でポートフォリオ研修会を企画・開催致しました。桜が咲き始めた3月29日に、平成31年度以降就任予定者も含めた23名の教員が、ポートフォリオやパフォーマンス評価の研究者である京都大学大学院教育学研究科教授西岡加名恵先生の教育講演会と、看護教育で多数の成功例を報告しているパナソニック健康保険組合立松下看護専門学校副校長の水方智子先生や、千里金蘭大学看護学部教授の藤原尚子先生、同講師の藤澤盛樹先生によるポートフォリオ導入の実践報告会に参加しました。

講演会を聴講後は、専門領域にわかれてポートフォリオの授業への導入に向けたグループワークを行い、ワーク後は発表と活発な意見交換によって学部全体でポートフォリオを考える機会を持ちました。進研アドの北野美和氏も加えた講師5名から、我々教員の発表に対して、好意的で有益な助言を頂きました。平成31年度就任予定者は自宅や研究室の引っ越しと重なり大変慌ただしい時期でしたが、一つのテーマに終日没頭し、新しい知見の獲得とともに教員間の絆も一足早く築けた有意義な一日になったようです。最後になり

ましたが、この機会を与えて下さいました木村学長をはじめ、多くの方々に感謝申し上げます。

母性看護学領域 教授 ひろやま ともこ 福山 智子



## 大学院医療保健学研究科助産学領域の授業展開の新しい取り組み

### 〈工場見学について〉

なぜ、この取り組みを始めたかという、医療保健学研究科の修士課程助産学領域では、当初から臨床助産学演習の一環として、医療安全管理の見地から、ケアの探求を目的とし、埼玉県浦和市にあるアトムメディカル株式会社の工場見学に行っています。この取り組みを始めてから早5年が経ちました。アトムメディカル株式会社は、主に周産期に関わる医療機器を生産している国内企業であり、写真は近代の先進型の保育器となります。それ以降画期的な保育器が生産され、周産期医療の歴史をたどると、医療の進歩と共に時代に合った機器が製造され医療を支えています。

見学した保育器の製造過程においては、機械化が進む中、アクリルを湾曲させ接着をするという手作業で行う職人技が光ります。また、アクリルはストレスがかかるとひび割れなどの原因となるためひび割れを防ぎ、透明度を保つためにストレスを抜く作業を行い製品化していきます。手間を惜まずこの工程を行う理由の一つとして、アクリルが曇っていたり、ひびが入った状態では保育器の中に収容された新生児の観察が妨げられてしまうからです。

アクリルの性質を踏まえ、医療者側のケアのしやすさということも考え製造がされています。これは製造過程のほんの一部ですが、一つ一つの工程には、このように原理原則に則った理屈が存在します。企業努力や高品質の製品を相手に届けることは、私達医療者に置き換えると、良いケアを対象者に提供することと共通します。科学的根拠に基づいたケアの提供とその人らしさという個性を尊重し、試行錯誤を繰り返し、最善のケアに繋げることを私達も日々の中で繰り返しています。

また、管理面では、品質管理はもちろんのこと、企業体制における管理があり、その内の一つとして災害時における流通ルート確保があります。

全国に支社を持ち国内産業であるからこそその強みでもあります

が、東日本大震災では物資の提供が滞りなく行われ、そのことにより助かった命があり、これは強みとなった事象で災害の多い日本では、大きな課題です。また、医療現場においても災害時の管理体制や備蓄はとても重要です。職種は違えど、企業の日々改善を繰り返しバージョンアップしている製造過程や全ての管理（改善、工夫、品質、労働、労務などを含む）を学ぶことで、助産管理との関連や日々使用している分娩台などの医療機器の構造や使いやすさを追求した工夫などを再認識し、医療安全という視点でも考えることができ、大切に使用しなくてはと毎回肝に命じる瞬間でもあります。

子どもの頃の工場見学に行った頃と変わらず、ワクワクする気持ちで、製品が出来上がるまでの過程を見学していますが、さらに学問との関連を楽しみながら見学でき、有意義な時間となりました。

母性看護学・助産学領域 教授 米山 万里枝



1956年に製造された国内第1号の歴史ある保育器

## 災害助産：避難所運営演習について

東京医療保健大学助産学専攻科では毎年、学部の保健師専攻学生とともに、「避難所HUG」を利用した災害時の避難所管理運営に対する演習を実施しています。

大学院医療保健学研究科の院生もその演習に参加し、臨床経験の無い学生達が悩み、支援を必要としている場合には助言したり、反対に、軟らかい頭の学生のアイデアをもらったりしています。いつかは発生する災害に対して、避難所を管理運営するために必要な

ことは何なのか、優先順位をどのように考えるのか、想定外に起こってくる出来事への対応などを一緒に悩みながら、準備していくことの重要性を認識していました。今後も母子避難所運営へのバージョンアップを含めて、考えていきたいと思えます。

母性看護学・助産学領域 教授 米山 万里枝



## 「まちの助産室」助産師がお母さん達の相談相手に

本年3月から、国立病院機構東が丘キャンパスにおいて「まちの助産室」を開いています。近隣にお住まいの産後のお母さんや赤ちゃんに対して、マッサージや育児相談のサポートを実施しています。助産や育児の経験豊富な助産師である母性看護学・助産学領域の教員が担当です。

日本は核家族化や晩産化が急速に進み、特に首都圏では孤独に育児をする女性が増え、育児不安や産後うつ病を患っている女性も急増しています。そこで、地域の皆様のお役にたてば、と社会貢献のために「まちの助産室」を開き、大学近隣のお母さん達に対して育児支援を始めました。

まちの助産室は2カ月に1回、1回あたり2時間程度とし、プログラムは、ベビーマッサージ、アロマトリートメント、母乳相談、育児相談、トークタイムなど多彩なプログラムを実施しています。マッサージで血行が良くなりご機嫌の赤ちゃんがキャッキョと声を上げたり、同じ立場のお母さん同士の弾んだ会話と笑い声が聞こえたり、会場は熱気でいっぱいです。「ベビーマッサージを家でもやってみます」とお母さん達の意欲を感じました。また、日ごろの育児で痛みのある腕にアロマトリートメントを行い、「リフレッシュできた」「良い香りで気持ちよかった」とリラックスしていただきました。さらに、母乳に関する悩み、夜泣きや離乳食に関する悩みにも個別に対応し、「この方法でいい、と安心しました」と疑問の解決に

つながっていました。トークタイムでは同じ月齢の赤ちゃんを持つお母さん同士が育児の悩みや現状をお話し、ママ友作りのきっかけにもなっており、やりがいを実感させてもらっています。

このように、赤ちゃんの成長促進、育児の仲間づくり、お母さん達のリラクゼーション、育児の悩みサポートなどの活動で、地域の方々のお役に立てるよう継続してまいります。

今後は助産師プログラムの大学院生や助産学に興味のある学部生にも協力してもらおう予定です。まちの助産室を、学生達の実践的な学びの場にもしていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

母性看護学・助産学領域 准教授 あさざわ きょうこ 朝澤 恭子



赤ちゃん同士もお友達に！



お母さんのマッサージでゴキゲンの赤ちゃんたち

## セルフケアのきっかけに ～ひがしが丘保健室の今後の展望～

国立病院機構キャンパス（東が丘）では、本学のビジョンのひとつである「学部・大学院の教育・研究成果を生かし、地域社会との共生が推進できるよう医療・保健・福祉分野における地域支援・協働の中核となり、積極的に社会に貢献する」ことを実現するために目黒区と共催で地域の健康づくりイベント「ひがしが丘保健室」を開催しています。

ひがしが丘保健室は2016年の9月に第1回が開催され、それ以降毎年定期的に3月と9月の年に2回開催し、多くの地域住民の健康づくりに貢献してきました。第1回の開催時は、ボランティアスタッフが学生・教職員合わせて約50名、参加者約30名だったこのイベントも、今では学内・学外合わせて約150名のボランティアスタッフで運営し、毎回200名前後の参加者にお越しいただくまでに大きくなりました。イベントの中身についても、単なる健康測定イベントに留まらないように工夫も凝らしています。例えば、持ち上げない介護である“ノーリフトケア”の提案や最近テレビなどでも話題の“フレイル”の本格的なチェックなど本学の日頃の研究成果の一端を地域社会に還元することや最新の医療知識を提供するなどして常に新しいことにチャレンジしてまいりました。2019年3月に行われた第6回のひがしが丘保健室でも、目黒区のシニア健康応援隊との共同でめぐる手ぬぐい体操ができるコーナーを設けました。また、今回はイベント中に都内でケーブルテレビを運営しているiTSCOMが取材に訪れ、“イッツコム地モトNEWS”で当日のイベントの様子が放送されました。イベント時の学生の生き生きとがんばっている様子や参加者の方々の本イベントへの期待の声などが映し出されており、本イベントの魅力がますます地域住民の方々に広く認知されるようになったのではと思っています。

既に本学ホームページ等でお知らせさせていただいております

が、この4月より看護学研究科に修士課程「高度実践公衆衛生看護コース」が開設されました。このコースでは、社会の多様な課題に対応できる実践力の高い保健師の育成を目指しています。そして、この高度実践公衆衛生看護コースのカリキュラムの特徴のひとつに、このひがしが丘保健室をフィールドとした様々な演習があります。1年次の夏にはこのイベントへの参加を通して、これまでの学習の成果を発揮する機会があります。さらに、2年次には、このイベントの企画から予算の管理、当日の運営にまで参画し、保健師に必要なプランニング、コーディネーション、マネージメントの能力を実践を通して養うことを目指しています。

このように回を重ねるごとに進化しているひがしが丘保健室ですが、今年度からはこの4月に入学した高度実践公衆衛生看護コースの学生とも強力なタッグを組んでさらなる飛躍を目指す予定です。今年度は9月13日(金)、3月13日(金)の2回、国立病院機構キャンパスで実施されますので、保護者の皆様も是非イベントの様子を見にお越しください。

地域看護学領域 准教授 きとうじゅん 佐藤 潤



ひがしが丘保健室ボランティア学生の集合写真

# 放射線看護研修センターについて

## ご存知ですか？「認定看護師」

本学では、2018年「放射線看護研修センター」を設置し、「がん放射線療法看護」の認定看護師の養成を始め、2019年3月には9名の修了生を第一期生として、送り出すことができました。

認定課程の研修生のみなさんは、7月から始まった木曜日と金曜日の夜および土曜日に開講される50人を超える専門の先生方からの講義を受けるために、栃木、群馬、千葉、埼玉県、東京都の施設から通ってこられました。12名の研修生は、全員、勤務を続けながらの研修でした。2019年2月には、東京医療センター、国立がんセンター中央病院、がん研有明病院、都立駒込病院、東邦大学大森病院、昭和大学病院に実習をお願いし、4週間の実習を修了しました。養成課程修了証は、残念ながら9名の研修生にしか授与することができず、キャリアアップ教育の厳しさを改めて実感しました。修了式の席では、厳しい研修を乗り越えたみなさんの絆は、今後の活動に役立つものと確信しました。

認定看護師は、看護師としての専門性をさらに強化した高度な看護実践力を備えた看護師で、現在、21の専門分野（救急看護、糖尿病看護、がん化学療法看護、乳がん看護、認知看護、訪問看護等）の認定看護師の養成課程があり、現在までに、全分野を合わせると約2万人の認定看護師が活躍しております。

本学で、養成している「がん放射線療法看護認定看護師」は、他の専門分野に比べて養成が始まってからの日が浅く、養成課程の数も少ない（2019年度は、全国で本学を含め3ヶ所）のために、274人（2018年7月）だけです。がん放射線療法の認定看護師は、放射線治療（リニアック、密封小泉源治療等）を受けるがん患者さん達が、

安心して治療を受けることができるように、患者さんの思いを重視しながら、科学的視点に基づいた支援をしております。

がんの部分だけに集中して放射線を照射することにより、患者さんの副作用や負担を少なくするための放射線治療法（陽子線や重粒子線を使った治療や、放射性同位元素を組織に直接埋め込む治療等）が次々と開発されておりますが、日本の場合、アメリカ等に比べてがんに対する放射線治療の割合が少ないのが現状です。日本人の50%はがんに罹患する時代です。大勢のみなさんに、放射線治療の利点をもっともっと知っていただくために、がん放射線療法認定看護師達が、施設内の活動に留まることなく、患者さんあるいは広く一般の人々を対象にした教育等にも係れる日が来ることを期待しつつ、養成教育に係ってまいります。

放射線看護研修センター 草間 朋子, 別所 遊子



# 産後ケア研究センターについて

2016年6月より品川区との官学連携事業として産後ケア事業が開始され、2018年4月、更なる事業拡大に伴い本学産後ケア研究センターが開設されました。

EBMに基づいたケアの質の保証をするために、大学院医療保健学研究科医療保健学専攻助産学領域の教員および大学院在學生、修了生、品川・港区助産師会の方々を中心として、年に一度4日間の従事者研修を実施しています。

これまでも周産期のメンタルヘルス研修等を実施し、2018年度には、母親達が実際に悩んでいる育児知識や技術のup-to-dateを目的として、Ergobaby社や江崎グリコ株式会社（旧アイクレオ）等、企業の担当者に来ていただきました。商品の詳細な使用注意事項や商品開発に関する講義を聞くことで、具体的に母児へのケアに活用できるようなブラッシュアップ研修を実施することができました。

写真は新たな従事者を迎えて、2019年度の従事者研修を実施しているところです。

今現在、産後ケア事業は「日帰り型」「訪問型」「電話相談」などの事業を展開し、おかげ様で「日帰り型」はキャンセル待ちがでている状態が続いております。

日々変わりゆく育児の世界で、ケアを必要とする母児の実態を助産師としての視点で調査・把握し、あるべき姿を検討し、そのニーズに応えるべく、質の保証された良いケアを提供できるような事業を運営してまいります。

産後ケア研究センター 教授 米山 万里枝



# 国際交流

## International Exchange

### 2018年度全学合同ハワイ研修を実施

国際交流委員会では、2018年度全学合同ハワイ研修を2019年3月10日～18日の日程で実施しました。学生29名（医療保健学部看護学科7名、東が丘・立川看護学部14名、千葉看護学部5名、和歌山看護学部3名）が参加しました。

到着日の文化研修として、今年はホノルル美術館を訪問し、また、当日開催されていたホノルルフェスティバルを見学しました。医療研修は到着日翌日から始まり、シャミナード大学で2日間、医療・介護施設アロハナーシング・リハブセンターで1日、ハワイ大学で2日間の研修を受けました。

シャミナード大学では、模擬患者を使って一連のエピソードのシミュレーション演習に参加しました。シャミナード大学の学生の演習を見学したのち、5名一組になって参加しました。参加しない学生も大型モニターで、その演習風景を観察し、全グループが演習を終えたのちに、全員で振り返るディブリーフィングの授業も体験しました。

ハワイ大学では、忠実度の高いマネキン、シムマンを使ったシミュレーション演習に参加しました。午前中、全員交代で4人一組になって心肺蘇生の練習を行い、午後は緊急事態へ対応するエピソードで、午前中学んだスキルを実践に移すシミュレーションに臨

みました。

学生にとっては、この模擬患者やコンピュータに連動したマネキンを使ったシミュレーションが、この研修の最大のハイライトとなったよう



ハワイ大学でのシミュレーション風景



シャミナード大学の学生や教員たちと

です。あらかじめ設定された患者や家族の状況への、看護師としての対応を練習したのですが、難しいながら臨床現場に近い環境で挑戦できた達成感もあり、研修では特に満足度の高い部分になったようです。



シャミナード大学での学生交流風景

アロハナーシング・リハブセンターは、介護施設ですが、病院から自宅へ戻るためのリハビリを提供する中間施設としての機能、まだ余命6か月を診断された利用者へのホスピスとしての機能も備えた施設です。今回の参加者は看護の学生のみでしたので、そのような多様な利用者に対する看護師の役割について、看護師から直接お話を伺いました。

また、シャミナード大学における学生交流では、とても楽しい経験をしました。本学の学生は、「世界で一つだけの花」と「上を向いて歩こう」を練習して披露し、また、事前に自分たちでつくった「ふくわらい」を持参して、現地学生たちに日本の伝統的な遊びを紹介しました。

シャミナード大学の学生たちは、フラを披露してステップを本学学生たちに教え、また、葉っぱのレイの作り方も教えてくれました。こうして、それぞれの文化を教えあい、ともに学びあった交流は、学生にとってとても楽しい有意義な経験になりました。

帰国後、事後研修を実施し、現地研修中の学びを振り返り、報告書作成へ向けての準備をしました。現在、報告書作成中です。

### シンガポールの専門学校生本学を訪問

国際交流センターでは、去る3月20日、シンガポールの専門学校 Republic Polytechnics の学生24名・引率教員2名が本学を訪問しました。日本の医療教育の一端を体験したいという希望に対して、医療保健学部の協力を得て、半日研修を世田谷キャンパスで実施しました。小西医療栄養学科長、看護学科秋山准教授、医療情報学科

瀬戸准教授がそれぞれ講義やミニワークショップを行いました。また、昨年海外研修に参加した本学学生も3名参加して一緒に授業を受け、折り紙などを使った学生交流も活発に行われました。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子



# 平成30年度 各種国家試験受験結果一覧

平成30年度の各種国家試験の受験結果は以下のとおりです。

受験者数・合格者数の（ ）は新卒者で内数である。

【看護師国家試験】	医療保健学部 看護学科				東が丘・立川看護学部 看護学科							
	平成29年度		平成30年度		平成29年度		平成30年度					
	—		—		臨床看護学コース	災害看護学コース	臨床看護学コース	災害看護学コース				
試験実施年月日	30. 2. 18		31. 2. 17		30. 2. 18		31. 2. 17					
合格発表年月日	30. 3. 26		31. 3. 22		30. 3. 26		31. 3. 22					
本学受験者数	(115名)	117名	(103名)	103名	(124名)	126名	(88名)	88名	(109名)	109名	(88名)	88名
本学合格者数	(115名)	117名	(100名)	100名	(124名)	126名	(88名)	88名	(106名)	106名	(85名)	85名
合格率	(100.0%)	100.0%	(97.1%)	97.1%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	100.0%	(97.2%)	97.2%	(96.6%)	96.6%
全国平均合格率（新卒）	96.3%		94.7%		96.3%		94.7%					
全国平均合格率（全体）	91.0%		89.3%		91.0%		89.3%					

【保健師国家試験】	医療保健学部 看護学科	
	平成29年度	平成30年度
試験実施年月日	30. 2. 16	31. 2. 15
合格発表年月日	30. 3. 26	31. 3. 22
本学受験者数	(19名)	21名
本学合格者数	(19名)	20名
合格率	(100.0%)	95.2%
全国平均合格率（新卒）	85.6%	88.1%
全国平均合格率（全体）	81.4%	81.8%

【助産師国家試験】	助産学専攻科		大学院看護学研究科 高度実践助産コース	
	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度
試験実施年月日	30. 2. 15	31. 2. 14	30. 2. 15	31. 2. 14
合格発表年月日	30. 3. 26	31. 3. 22	30. 3. 26	31. 3. 22
本学受験者数	(19名)	20名	(19名)	19名
本学合格者数	(19名)	20名	(19名)	19名
合格率	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	100.0%
全国平均合格率（新卒）	99.4%	99.9%	99.4%	99.9%
全国平均合格率（全体）	98.7%	99.6%	98.7%	99.6%

【管理栄養士国家試験】	医療保健学部 医療栄養学科	
	平成29年度	平成30年度
試験実施年月日	30. 3. 4	31. 3. 3
合格発表年月日	30. 3. 30	31. 3. 29
本学受験者数	(92名)	92名
本学合格者数	(86名)	86名
合格率	(93.5%)	93.5%
全国平均合格率（新卒）	95.8%	95.5%
全国平均合格率（全体）	60.8%	60.4%

(教務部)

### 1. 概況

- 本学の平成30年度卒業生の就職率は、100%です。(昨年99.8%)
- 文部科学、厚生労働両省による、今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、97.6%でした。(昨年98.0%)

### 2. 各学科の状況 ※各学科の下記データは平成27年度入学生

#### (1) 医療保健学部 看護学科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

就職希望	就職	病院	84
		保健師	4
		看護教諭	1
	未就職		0
進学	本学大学院、助産学専攻科		7
	大学院等		1
その他※			3
計			100

#### (3) 医療保健学部 医療情報学科

就職率：100% (昨年：98.6%) (人)

就職希望	就職	61
	未就職	0
進学	大学院	0
	大学、専門学校等	1
その他※		2
計		64

※その他：資格取得を目指す/個々の理由で就職しない等。

#### (2) 医療保健学部 医療栄養学科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

就職希望	就職	87
	未就職	0
進学	大学院	1
	専門学校等	0
その他※		3
計		91

#### (4) 東が丘・立川看護学部 看護学科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

		計	臨床	災害	
就職希望	就職	病院	173	94	79
		他	0	0	0
	未就職		0	0	0
進学	本学大学院、助産学専攻科		6	4	2
	大学院等		2	1	1
その他※			1	1	0
計			182	100	82

コース別就職率：100% 100%

#### (5) 助産学専攻科

就職率：100% (昨年：100%) (人)

就職希望	就職	19
	未就職	0
計		19

### 3. 主な就職先、進学先

#### 医療保健学部看護学科

【就職先】 NTT東日本関東病院、東京通信病院、東京大学医学部附属病院、東京都済生会中央病院、川崎市病院局、国立がん研究センター中央病院、国立成育医療研究センター病院、関東労災病院、東京労災病院、東京慈恵会医科大学附属病院、日本医科大学付属病院、榊原記念病院、千葉西総合病院、三井記念病院、昭和大学病院、千葉県市原市役所、千葉県柏市役所、東京都多摩市役所、武蔵野市立大野田小学校、山梨県上野原市、等 【進学先】 本学助産学専攻科、独協医科大学助産学専攻科

#### 医療保健学部医療栄養学科

【就職先】 柏市立柏病院、がん研有明病院、北里大学病院、国際医療福祉大学三田病院、筑波記念病院、成田赤十字病院、エムサービス株式会社、株式会社セブン&アイ・フードシステムズ、日清医療食品株式会社、富士産業株式会社、株式会社LEOC、ウエルシア薬局株式会社、スギホールディングス株式会社、株式会社富士薬品、株式会社JPホールディングス、株式会社学研ココファンナーサリー、株式会社サンデリカ、日本クッカー株式会社、株式会社JALスカイ、ジャルロイヤルケータリング株式会社、航空自衛隊、所沢市、横浜市、等 【進学先】 日本女子大学大学院

#### 医療保健学部医療情報学科

【就職先】 NTT東日本関東病院、国際医療福祉大学病院、東京都保健医療公社、IMS（板橋中央総合病院）グループ、日本医科大学付属病院、日本赤十字社、日本赤十字社医療センター、キーウェアソリューションズ株式会社、キャンメディカルシステムズ株式会社、富士通株式会社、富士フィルムメディカルITソリューションズ株式会社、株式会社大和ハウス工業、東京都国民健康保険団体連合会、等 【進学先】 埼玉医科大学

#### 東が丘・立川看護学部

【就職先】 東京医療センター、災害医療センター、東京病院、東埼玉病院、埼玉病院、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、国立国際医療研究センター病院、国立成育医療研究センター病院、国立精神・神経医療研究センター病院、済生会横浜市東部病院、武蔵野赤十字病院、東京大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院、埼玉県立病院、東京都健康長寿医療センター、北里大学病院、昭和大学病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、東京医科大学八王子医療センター、東京医科大学病院、東京慈恵会医科大学附属病院、東邦大学医療センター大森病院、日本医科大学付属病院、千葉西総合病院、虎の門病院、等 【進学先】 本学大学院看護学専攻科、本学助産学専攻科、上智大学大学助産学専攻科、神奈川県立衛生看護専門学校助産師学科

(学生支援センター)

# 平成31年度 学生募集に係る入試実施結果

( ) は前年度 (単位: 人)

学部	学科	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
医療保健学部	看護学科	(100) 100	(1,646) 1,714	(1,560) 1,624	(372) 370	(122) 118
	医療栄養学科	(100) 100	(349) 334	(329) 311	(252) 266	(106) 94
	医療情報学科	(80) 80	(114) 144	(108) 137	(107) 129	(51) 70
	合計	(280) 280	(2,109) 2,192	(1,997) 2,072	(731) 765	(279) 282
東が丘・立川看護学部	看護学科 臨床看護学コース	(200) 200	(1,366) 1,310	(1,293) 1,232	(221) 240	(107) 106
	看護学科 災害看護学コース				(177) 182	(107) 113
	合計				(398) 422	(214) 219
千葉看護学部	看護学科	(100) 100	(774) 809	(714) 774	(283) 303	(107) 107
和歌山看護学部	看護学科	(90) 90	(541) 492	(503) 475	(143) 157	(104) 100
助産学専攻科		(15) 15	(67) 63	(64) 63	(21) 20	(20) 20

(入試広報部)

# 平成30年度 決算報告 (速報値)

(単位: 百万円)

	法人		東京医療保健大学		青葉学園幼稚園		野沢こども園		合計		予算増減
	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	
教育活動収入計	30.0	43.5	4,343.0	4,367.5	213.1	226.5	273.3	278.1	4,859.4	4,915.6	56.2
教育活動支出計	74.2	73.0	4,765.0	4,822.3	173.2	167.0	257.3	245.8	5,269.7	5,308.1	38.4
教育活動収支差額	▲ 44.2	▲ 29.5	▲ 422.0	▲ 454.8	39.9	59.5	16.0	32.3	▲ 410.3	▲ 392.5	17.8
教育活動外収入計	0.0	0.0	1.7	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.6	▲ 0.1
教育活動外支出計	0.0	0.0	34.5	33.5	0.7	0.4	0.0	0.0	35.2	33.9	▲ 1.3
教育活動外収支差額	0.0	0.0	▲ 32.8	▲ 31.9	▲ 0.7	▲ 0.4	0.0	0.0	▲ 33.5	▲ 32.3	1.2
特別収入計	0.0	0.0	69.0	71.7	0.0	0.3	0.0	0.0	69.0	72.0	3.0
特別支出計	0.0	0.0	5.0	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	9.7	4.7
特別収支差額	0.0	0.0	64.0	62.0	0.0	0.3	0.0	0.0	64.0	62.3	▲ 1.7
予備費	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
事業活動収入計	30.0	43.5	4,413.7	4,440.8	213.1	226.8	273.3	278.1	4,930.1	4,989.2	59.1
事業活動支出計	74.2	73.0	4,804.5	4,865.5	173.9	167.4	257.3	245.8	5,309.9	5,351.7	41.8
基本金組入前収支差額	▲ 44.2	▲ 29.5	▲ 390.8	▲ 424.7	39.2	59.4	16.0	32.3	▲ 379.8	▲ 362.5	17.3
減価償却①	0.5	0.6	513.0	511.7	9.4	8.5	7.0	5.7	529.9	526.5	▲ 3.4
退職金引当金繰入②	0.0	0.0	72.0	77.2	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	77.2	5.2
資産処分差額③	0.0	0.0	5.0	9.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	9.6	4.6
除く①②③収支差額	▲ 43.7	▲ 28.9	199.2	173.8	48.6	67.9	23.0	38.0	227.1	250.8	23.7

(経理財務部)

テクノロジー社会を生き抜くための進路選択  
～『大学での「学び」は、誰を幸せにするのか?』～

本学医療保健学部医療情報学科は、5月11日(土)に、藤沢翔陵高等学校(学校長:金子好幸)の進路選択の学習の一環として、同校の3年生の大学進学希望者対象の講演会を行いました。

この講演会は高校生が社会人として活躍する超スマート社会の中で、たくましく生き抜くために、高校・大学・社会人としてどのように学び・成長することが必要かを考えるために、「医療分野におけるテクノロジーの未来」をテーマに学習することを目的に開催。

本学とともにVRを用いたリハビリ支援機器の開発を行うベンチャー企業の代表(株式会社 silvereve CEO 汲田宏司氏)と、高齢者の介護現場とリハビリ現場でテクノロジーを活かそうという理学療法士(株式会社Re ambitious松本裕輝氏)が、それぞれの立場から高校生にメッセージを送り、約180名の生徒たちは目を輝かせ、自身の将来への可能性を感じていました。



藤沢翔陵高等学校では、【「挑戦」を通じて主体的に学ぶ。】をテーマに、生徒自身が未知への挑戦をしていく場を提供し、その中で自分自身の生き方を見つける学びを展開しており、本公演においても未知の分野の知識を得ることで、これから大学進学、そして社会へと繋がる飛躍の原動力を身につけてくれました。

また、本講演終了後には、VRを用いたヘルスケアソリューション機器「RehaVR」の体験も実施し、講演に参加した多くの生徒で長蛇の列が出るほどで、大きな賑わいを見せました。

本講演会は、大学入試改革が進む昨今、高校生が大学の学びとその先の生き方や社会との関わりについて具体的に考えることで、今後の主体的な学びと進路選択を支援するユニークな取り組みであり、高大接続の観点からその成果が期待されます。

学生募集部長 おぎわら ゆういち 荻原 雄一

RehaVR とは

「RehaVR」は、医療保健学部 医療情報学科の今泉一哉教授と silvereve社の共同研究で開発した、一体型VRヘッドセットと小型フィットネスバイクを使い、ヘッドセットに投影されるVRコンテンツにバイクのペダルが連動してトレーニングを行えるソリューションです。

現在「RehaVR」は、世田谷キャンパスでの基礎実験が完了し、現在首都圏の病院やデイケアサービス等において、実証実験を進めています。運動機能のリハビリはもちろんのこと、外への散歩を仮想体験したり観光地への旅行気分を味わえることは、病院でのリハビリ

テーションより晴れやかな心でトレーニング出来ることが期待されており、心のフレイル予防も図っています。



学科見学会「Study Campus」を実施

今年度の医療情報学科の学科見学会は、昨年度より引き続き医療情報学科と学生募集部が連携し、「Study campus」という名で計9回の実施を予定しております。3月24日(日)及び4月27日(土)に今年度の第1回目、第2回目のスタディキャンパスを実施致しました。新3年生を中心に、「バイオメカニクス入門」「VRと3Dプリンタの医療応用」「ARの世界」「ヘルスケアIoT機器に触れてみよう」などの模擬授業・体験授業を受講し、医療情報分野の学びを体験し

ていただきました。

5月25日(土)には診療情報管理士に焦点を置きました、第3回目のスタディキャンパスを実施し、13組18名に参加いただきました。引き続きイベントごとに明確な目的を持ち、高校生の進路選択、受験意欲につながる、よりよい企画を行っていきます。

学生募集部長 おぎわら ゆういち 荻原 雄一

## 大学評価（認証評価）結果について

本学は、国の認証評価制度により平成30年度に2回目となる大学基準協会の大学評価（認証評価）を受審し、1回目（平成23年度）に引き続き「大学基準に適合していると認定する」とされました。認定期間は、2019年4月1日から2026年3月31日までの7年間です。

評価結果の中でS評価となった「教育研究組織」については、①看護学研究科修士課程に「高度実践看護コース」を設け、診療看護師（NP）を育成し、全国に排出しており、社会の要請に応えた専門職の育成に取り組む教育研究組織を編成していること、②全ての学部・研究科が学位授与基準（DP）、教育課程の編成・実施方針（CP）に基づいて適切にカリキュラムを編成しており、医療保健学部における学科合同のチーム医療教育は特色ある教育を行っていることが高く評価されました。

今後は、評価時における提言や改善課題を踏まえ、教育研究の質向上と充実・発展を図るとともに、社会への説明責任を果たすために策定した「東京医療保健大学ビジョン」、平成29年度スタートの第2期5年間（令和3年度まで）の中期目標・計画の達成に向けて、その具体的な行動指針である「アクションプラン」を着実に実行してまいります。なお、本評価の状況については、本学ホームページに掲載しています。

（企画部）



## 主なメディア掲載（3月～6月）

### 【新聞】

媒体名	媒体社名	掲載日	タイトル
読売新聞(東京)	読売新聞	3月13日	教育や災害対応 立川市が協定 医療保健大と
高知新聞	高知新聞社	3月15日	性教育で心育てる「悩み乗り越える方法を」東京医療保健大・渡會教授講演 高知市で母性衛生学会
わかやま新報	和歌山新報社	4月11日	心温かい医療人に 東京医療保健大 和歌山の2期生入学 和歌山
読売新聞	読売新聞	5月29日	安心設計 あせも 汗洗い流して予防（東が丘・立川看護学部看護学科 中島教授） ※読売新聞オンラインにも掲載

### 【WEB】

媒体名	媒体社名	掲載日	タイトル
読売新聞オンライン	読売新聞	4月12日	池江璃花子選手らAYA世代…心に響く励まし方（医療保健学部看護学科 富岡教授）
4 years #大学スポーツ	朝日新聞社	4月24日～	東医保大女子バスケ・恩塚ヘッドコーチ（上）（中）（下）
SPORTS BULL	運動通信社	6月1日	大学トップアスリート密着ドキュメンタリー「THE STARS」女子バスケ部 永田萌絵

### 【TV】

媒体名	媒体社名	掲載日	タイトル
炎の体育会TV	TBS	3月16日	バスケ シューティング20 最強DNAを受け継ぐ 22歳以下日本代表 藤本愛妃（21）



読売新聞オンライン掲載の記事はこちらからご覧ください。



4月12日 富岡教授  
AYA世代…励まし方



5月29日 中島教授  
子どものあせも

# GS 1 Healthcare Awardを受章して

去る3月26日、アムステルダムの近郊、北海に面したリゾート地 Noordwijkで開催された第35回 Global GS1 Healthcare Conference において、筆者にGS1 Provider Recognition Award が授与された。GS1 Healthcare の活動に貢献した個人が対象で、日本人は今回が初であった。(https://www.gs1.org/industries/healthcare/hpac/winners)



オランダ (Noordwijk) で開催された受賞式の様子

今般、学報「こころ」より、それについてご報告する機会を賜った。賞そのものより、日頃の筆者の活動の一端を披露させていただこうと思い、拙文を寄せる次第である。

今日、我々が手にする商品の多くにはバーコードが付いている。身近にある商品のバーコードを改めて見てみると、その下に小さな数字の付記がある。それがその商品に固有のコードである。専門的にはUDI (Unique Device Identifier: 固有識別子) という。UDIは人が目で見て読み取るより、器械で自動的に読み取れてこそ作業の能率も上がる。バーコードで記されるのはそのためである。

流通業界では、バーコードの形で商品の一つ一つに固有のコードを付けることが早くから行われてきた。バーコードをバーコードリーダーで読み取ること、その商品の値段を知らないアルバイト店員でもレジ業務ができる。加えて、どの店員が、いつ、どこで、どの商品を、どのような客に、どのように(いわゆる5W1H)売ったか、その商品の移動にかかる情報(トレーサビリティという)も全て自動的に記録できる。自動認識技術(Automatic Identification Data Capture (AIDC) technology)と呼ばれる仕組みである。AIDCで得られた情報を活用すれば、ストアにとっては、翌日の商品の売れ行きを予測する事も可能になる。無駄な仕入れや過剰在庫も避けられる。業界全体の効率も向上する。

しかし、このようなことが業界全体で可能になるためには、UDIやバーコードの付け方が、国内だけでなく国際的にも統一されている必要がある。

冒頭に記したGS1こそは、UDIの標準化・普及を担う国際機関であり、その本部はブリュッセルにある。GS1のコード体系とバーコードは、既に、150国以上で使用されている。因みに、GS1(ジーエスワン)は正式名称であり、何かの略語ではない。

GS1の目的は商品流通の効率化と可視化にあるが、同様の仕組みを医療界にも普及させ、医療の効率化と安全に資するため設立されたのがGS1 Healthcareである。

先述したトレーサビリティには、モノの移動について追跡(track forward)することと遡及(trace back)することの2つの意味がある。

Track forward(前方視)できるということは、目的に向かって正しく手順を定め、計画通りに、対象物を過不足なくその状態の管理も含めて適正に送り届けられることに他ならない。対象物を薬剤や医療材料・機器と考えれば、トレーサビリティの確保こそは、まさに医療が安全に行なわれるための真髄といえる。

今日、わが国の薬剤のバーコードの表示率は既に100%に及ぶ。医療材料・機器においても90%を超える。このことを医療現場で利用しない手はないであろう。

筆者は医療におけるトレーサビリティを、薬剤や医療材料、医療機器の移動だけでなく、医療において行われる全ての営み(説明、検査、処方、処置、手術、など)について、それに関連する情報を5W1Hの形で確保・実行・記録できることと捉えている。

しかし、このために人手を掛けるようでは本末転倒になる。だからこそ、医療界も、他産業に学び、自動認識技術を広く活用していくことが必須といえる。

筆者が病院長時代、常に心にあった事といえば、それは医療安全に尽きる。

その手段の一つが「医療におけるトレーサビリティの確立」ではないか。筆者がGS1の活動に微力を尽くしてきた所以である。



東京医療保健大学 学事顧問 落合 慈之



## 落合慈之先生のプロフィール

医学博士/埼玉県出身。1971年東京大学医学部を卒業後、脳神経外科医として同附属病院、JR東京総合病院、関東逡信病院(現NTT東日本関東病院)等に勤務。2002年NTT東日本関東病院院長に就任。病院経営に携わる中で医療におけるトレーサビリティの重要性に着目、バーコードやRFIDによる医薬品・医療材料・医療機器等の安全かつ効率的な流通とトレーサビリティの確立に尽力している。2011年よりGS1ヘルスケアジャパン協議会会長。2014年には、NTT東日本関東病院名誉院長。同年東京医療保健大学学事顧問に就任。

# トピックス Topics

## 東京医療保健大学 立川市と包括連携協定を締結

本学は、立川市と包括連携協定の締結に合意し、2019年3月7日(木)に立川市役所で締結式を行いました。

本協定は、保健医療福祉及び災害対策の分野を中心に、本学と立川市の両者がそれぞれの特性を活かして連携し、協力することで、ともに支えあい、健やかに安心して暮らせるまちの形成と、次代を担う創造性豊かな人材を育成することを目的としています。

2014年、立川市に所在する国立病院機構 災害医療センターを主たる実習施設とした、東が丘・立川看護学部 災害看護学コースを設置してより、同市とは密接な協力関係を築いてまいりました。2018年2月と11月に、立川市が主催した「立川駅帰宅困難者訓練」には、帰宅困難者役として本学災害看護学コースの学生が多く参加しました。また、2018年10月には、立川市との共催により初めて「公開講座」を実施し、53名の市民が集まりました。

今後も、立川市と幅広い分野で協力をを行い、地域社会の活性化を推進してまいります。



左：田村理事長、右：清水立川市長

## NTT東日本関東病院 ふれあいフェスティバル2019

「関東病院ふれあいフェスティバル」が6月8日(土)にNTT東日本関東病院の中庭「和(なごみ)」にて開催されました。

本イベントは、NTT東日本関東病院主催により、地域住民等とのふれあいの場となることを目的とし、開催されています。本年度で16回目を迎えた本イベントには、院長の亀山先生をはじめ、医療スタッフの方々、患者さん及びそのご家族、地域住民等、毎年多く方が参加されています。

本学からは、今年も手話ボランティアサークルとチアダンス部Jasmineが参加し、それぞれ手話コーラスとチアダンスのパフォーマンスを披露しました。

この他、無料の食事コーナー、各種健康相談コーナー、身体測定コーナーやお子様コーナーを設けており、とても盛況に行われていました。



NTTふれあいフェスティバル

## 東京医療保健大学公式Instagram



東京医療保健大学【公式】

Username : tokyoiryohoken\_univ

主に各キャンパスの様子やイベント・メディア掲載のお知らせを配信しています。



## 編集後記 Editor's note

元号が「令和」になり初めての発行となる本号では、令和2年度に①東が丘・立川看護学部が学部の改組により「東が丘看護学部」「立川看護学部」として、それぞれの特色を生かし再スタートすること、②「和歌山看護学研究科」設置に向けての特集記事では、地域の保健医療福祉の発展に貢献する大学院を目指し、準備を進めていることを紹介いたしました。いずれも、7月からの広報活動が予定されております。

また、本学学事顧問の落合慈之先生が「GS1 Healthcare Award」の国際賞を受賞され、医療における「トレーサビリティ」について執筆いただいております。

3月には、昨年受審した大学基準協会による大学評価(認証評価)の結果が通知され、大学基準に適合していることが認定されました。本学は、今後も教育の質向上を目指すとともに、医療系大学として教育研究上の特色を発揮し社会貢献に取り組む、また、それらの活動を積極的に紹介していけるよう、広報誌作成を進めてまいります。(Y)

